

# ともに

男女共同参画社会の  
実現をめざす情報誌

2017.10  
62号

**特集**

ノジマステラ神奈川相模原  
吉見夏稀選手にインタビュー

P2~P4

● ともに小事典 ..... P5

11月12日～25日は  
「女性に対する暴力をなくす運動」期間です

● きらり輝く人in相模原 ..... P6~P7

暮らしの手仕事～くらしして～ 大和真由美さんにインタビュー

● ソレイユさがみ通信 ..... P8



### スポーツと男女共同参画

今、スポーツ分野における男女共同参画は、どのように推進されているのでしょうか。

文部科学省では、スポーツに関する施策の総合的・計画的な推進を図るため、スポーツ基本法(平成23年8月24日施行)の中で、スポーツ基本計画を定めています。

また、平成29年3月に策定された「第2期スポーツ基本計画」では、スポーツを通じた女性の社会参画・活躍を促進するとの施策目標が掲げられています。具体的施策としては、女性がスポーツに参画しやすい環境の整備や、女性のニーズや意欲に合ったスポーツ機会の提供などが位置づけられ、男女共同参画が積極的に推進されているところです。

国際的には、国際オリンピック委員会(IOC)が、オリンピックの中長期改革計画であるアジェンダ2020の中で、男女平等の推進を掲げ、大会への女性参加率50%を目標としています。

スポーツ分野での男女共同参画の推進が進む中、平成23年のFIFA女子ワールドカップドイツ2011では、日本が大会初優勝を成し遂げ、女子サッカーも一層の盛り上がりを見せています。本号では、ノジマステラ神奈川相模原にて活躍する、吉見夏稀選手にインタビューしました。



### 吉見夏稀 MF10 プロフィール

1993年生まれ。座間市出身。中学生の頃から、アスリート養成機関であるJFAアカデミー福島に所属し、サッカーと学業を両立させて寮生活を送る。2012年2月1日、「ノジマステラ神奈川相模原」が創設され、初年度から選手として在籍。現在は副キャプテンを務め、チームの中心となり活躍。ポジションはMF(ミッドフィルダー)。



#### ノジマステラ神奈川相模原とは?

ノジマステラ神奈川相模原は、相模原市をホームタウンとする女子サッカーチームであり、平成24年2月に発足しました。平成27年度より、なでしこリーグ2部で活動を開始し、平成28年度、2部で優勝。平成29年度には、1部への昇格を果たしました。全国の強豪チームと戦いを繰り広げる中、地域活動にも参加するなど、本市のシンボルとして活躍しています。

ノジマ：株式会社ノジマが展開する家電量販店。市内では、相模原本店を含め、3店舗展開。

#### 苦勞を乗り越えるには

今までのサッカー人生で、一番つらかったのはどんな時でしたか?

中学・高校の頃、周りのレベルが高すぎて、つらさを感じることはありませんでした。「やめたいな」と思ったことは、結構あります。

そんなとき、どうやって乗り越えたのでしょうか。

やらなきゃいけない環境にいた、というのもありますし、好きだから乗り越えられた、というのもあります。つらい時は、練習が終わってから、一人でボールを蹴ったり触ったりして乗り越えてきたかなと思います。



#### ボールを蹴り始めたのは、4歳のころ

サッカーをはじめたきっかけは?

幼稚園の頃、近所の女の子の友だちに誘われて始めたのがきっかけです。4歳くらいの頃、幼稚園にあるサッカーのクラブに参加していました。男の子がメインで、女の子は2人くらいでしたが、休み時間にも、皆でボールを蹴ったりしていました。当時、兄もサッカーをやっていて、小学生くらいまでは、朝学校に行く前に、兄と一緒に練習したりもしていました。

#### 家族のようなチーム

普段の練習は厳しいですか?

はい。一試合10km以上走るスポーツなので、他のチームと比べても、ラントレーニングとあって、ボールを使わずに走るだけのトレーニングが多く組み込まれています。そういったフィジカルトレーニングの面では厳しい部分もあると思います。

チームの魅力を教えてください

選手は本当に仲が良く、皆良い人ばかりです。パスのサインや試合中の動きなども、アイコンタクトだけで通じ合います。スタッフも気さくで、家族のような存在です。サポーターも熱心な方が多く、すべてひっくるめて、一体感のあるチームだと思います。

#### 「プロになる」スイッチが入った瞬間

こどもの頃から、サッカー選手になるのが夢だったのですか?

サッカーを始めたのが早かったのですが、サッカー選手になりたいなあととは思っていませんでした。ただ、小さい頃は、夢を叶える難しさなんて知らなかったの、なりたいたいというよりは、なるんだらうなくらいに思っていました。

「プロになるぞ」というスイッチのようなのが入った瞬間があるのでしょうか?

自分の中でスイッチが入った瞬間があるとすれば、中学校から、福島で寮生活をしていたのですが、試験を受けて養成校に入ってから、他の本気の生徒を見て刺激を受けた時です。

# ともに 小事典

『ともに小事典』では、男女共同参画に関する新しい言葉を紹介しています。今号では、「マミートラック」についてご紹介します。

## 【マミートラック】

「マミートラック」とは、「キャリア優先」ではなく、「キャリア+家族」を優先した子どもを持つ女性の働き方から起こる現象のひとつです。

労働時間や労働量等に融通をきかせることにより、仕事と育児の両立が図りやすくなる一方、補助的業務や、手続きが決まりきった日課のような作業のみを割り当てられ、結果的に昇進・昇格から遠くなるとも言われています。企業等でのキャリアアップは、一般的に、能力などに応じて階段を上るように昇進・昇格していきませんが、この階段を上ることができず、延々と陸上競技のトラックを走り続けるような状態になってしまうことから名づけられました。

マミートラックに乗ってしまう原因としては、「子育てのために時短勤務を活用したら、評価が下がった」「勤務時間に制限がある社員には責任ある仕事が任されない」など、長時間労働を前提とした企業の勤務体制や、子育て中でも、他の社員と同じように活躍できる職場の環境づくりが不十分であることが考えられます。

社会全体として、子育て中であることにかかわらず、本人が望むキャリアアップができる職場環境づくりが求められています。



どんな時にやりがいや楽しさを感じますか？  
チームとしても、コンセプトというか目指しているところが、「一生懸命やる」、「見ている人に何か感じてもらう」という部分なので、試合後にお客さんとハイタッチができる時間や、午前中、ノジマの店頭に立っているときなどに、「元気も戻ったよ」などと声をかけてもらうと、人になにかを与えられているんだなあ、とやりがいを感じます。

## 「地域とのつながり」

地域の行事やイベントに参加することもあるのですか？

はい。5月には、相模の大風まつりでチームのブースを出しました。ユニフォームやタオルなどのグッズを販売し、ブースに来てくださる方々との交流からも、応援の言葉をいただきました。



## 11月12日～25日は「女性に対する暴力をなくす運動」期間です

配偶者や恋人などからの暴力(DV=ドメスティック・バイオレンス)や性犯罪・セクハラなどは、決して許される行為ではありません。

### DVとは、次のような行為です

- 殴る、蹴る、だけがDVではありません。次のような行為で悩んでいる方も、下記窓口で相談できます。
- 生活費を渡さない
- 何を言っても無視して口をきかない
- 人の前でバカにしたり、命令するような口調でものを言ったりする
- 実家や友人とつきあうのを制限したり、電話や手紙、メールなどを細かくチェックしたりする

### DVが与える影響

- 被害者に与える影響  
けがなどの身体的な影響だけでなく、PTSD(心的外傷後ストレス障害)など、精神的な影響を受けることもあります。
- 子どもに与える影響  
直接的な暴力が及ぶだけでなく、暴力を目撃することによる心身へのさまざまな影響が懸念されます。



もし、DVに悩んでいたら、相談してください！

「家庭内の問題だから」「自分さえ我慢すればいい」などと一人で抱え込まないで、相談してください。

相模原市配偶者暴力相談支援センター DV相談専用電話 ☎042-772-5990

受付時間 午前10時～午後4時30分 火・木曜日は午後8時まで(第4月曜日、年末年始を除く)

※男女問わず御相談をお受けしています。

※緊急時は110番してください。

相模原市マスコットキャラクター「さがみん」



## 今後の展望と、 未来の女子サッカー 選手へのメッセージ

選手としての夢は？

将来サッカー選手としてこうなりたい、というのには特には持たないタイプなので、選手としてなにか大きな目標を持つということはないのですが、毎日の練習を大切に、目の前の試合に勝ちたい、と思っています。

これから、女子サッカー選手を目指す人たちにメッセージをお願いします

一番大切なことは、サッカーを好きでいることだと思います。つらいこともあるけれど、やっぱり好きだからこそ乗り越えられるものだと思うので、純粹にサッカーを好きだという気持ちを、ずっと持ち続けて欲しいなと思います。



### 取材後記

取材中、吉見選手は、ピッチ上の表情とは違い、始終穏やかな表情でお話ししてくださいました。また、試合にかける想いをお聞きすると、語り口は冷静沈着ながら、チーム全員が全身全霊をささげ勝利に向かって躍動する、臨場感溢れる様子が伝わってきました。

吉見選手のお話から、女子サッカーが大きく盛り上がっていることを実感し、スポーツ分野における男女共同参画も、一層推進されていく未来を見ました。(さがみはら男女共同参画推進員Y.O.)

男女共同参画社会  
実現に向けて、  
各分野で活躍中の方々を  
紹介するコーナー

# キラリ輝く人 in 相模原

## 暮らしの手仕事 ~くらしで~

### 大和 真由美 さんに インタビュー

子育てをきっかけに緑区の藤野地区へ移住し、「衣の自給自足」をテーマに、棉栽培や羊の飼育から仕立てまで、衣類や小物の製作・販売・ワークショップを行う、大和真由美さんにインタビューしました。



#### 暮らしの手仕事 くらしでくらしとは？

**Q** どのような事業ですか？  
**A** 衣の自給自足をテーマに、羊の飼育、棉栽培、染め、糸紡ぎ、織り・編み、仕立て、販売までを行っています。また、それらの活動をワークショップ形式で行うこともあります。お店では、自然からいただいたものを使って、素材にこだわった洋服を、ワークショップの活動のことも含めて皆さんに紹介できるように、という想いで商品を置いています。

#### 起業やマネジメントについて

**Q** 事業を始めたきっかけは？  
**A** 私は、以前東京で服飾の仕事をしていたのですが、もともと地域に根付いた、素材



「暮らしの手仕事~くらしで~」  
(店舗外観)

づくりの部分に関りたいという思いがあり、子育てをきっかけに東京から藤野に移住してから、棉の栽培を始めました。  
棉栽培から糸を紡ぐところまで実践してみても、「自然の循環の中で、棉を種から育て、自分や家族のためにものづくりをする充実感」を、外に向けて発信していきたいという思いが生まれました。ワークショップを開催するようになったのはそれからです。お店については、夫が、元々食堂だった空き店舗を改修して飲食店をオープンしたのですが、その店舗の2階部分が空いていて、家族で住むには狭すぎるといふことで、そこをお店にしました。



#### 地域のつながりを大事に

**Q** 事業をはじめるとは、ご苦労されたことはありますか？

**A** 藤野に来る前は、夫が東京で飲食店を経営していたのですが、その頃はどこでもお店はできると思っていました。しかし、実際には、移住者が0から事業を始めるのですから、軌道に乗るまで8年くらい苦労しました。最初は大変な時期もありましたが、地域の方々と出会う中で、少しずつ、つながりが広がっていき、協力してくれる方が居るおかげで、現在の形になりました。

#### 私の仕事は、 子どもの成長とともにあった

**Q** ご夫婦でそれぞれの事業をされているというのですが、家事や育児との両立はどうなっていますか？



**A** 私の仕事は、子どもの成長とともに形を変えてきました。子どもが小さいときは、そばを離れられなかったので、家で仕事をしていましたし、手が離れるようになってからは、ワークショップなど、お客さんと共に活動するようになりまし。子育てに無理がないような働き方を自分で考えて仕事をする事ができたので、両立に対する不安はありませんでした。  
夫は夫の事業をしていますがお互いにお互いのテリトリーを侵さないというか、尊重しあうようにしているのです。そこで関係がぎこちなくなるようなことはありません。子育てについても、子どもが小さい頃は、

#### 各地へ飛んでいく、想いの種

**Q** 事業を通して伝えたいことは？

**A** ワークショップには、都内や千葉など、遠いところからも色々な方が来てくれます。一番大事にしていることは、ワークショップをやって終わりではなくて、お帰りになった後も、ご自身が住む土地で、棉栽培やその先の作業を暮らしに活かしていただけるようにすることです。そのため、ワークショップの内容は、どんな土地に行っても、参加者の方が暮らしの中に落としこめるような内容にしています。

#### 好きなことを続けること

**Q** これから事業をはじめたい、と考えている人に向けて、メッセージをお願いします

**A** 大切なことは「続けること」だと思います。私は、自分の好きなことを見つけて、それを続けていくうちに、人とのつながりや世界が広がっていききました。その中から、自分の活動や事業の形ができ、やりがいのあることを仕事にすることができています。

#### 取材 後記

大和さんは、自然体で、心の豊かさを感じさせるとても素敵な方でした。そして『くらしで』は、現代社会が置き去りにしてしまった、手間暇かけてモノを扱うことの大切さを再確認する場であり、その理念に共感するお客様が遠方からもいらっしゃるといふのも頷けました。好きなことを続けること、それは「自分が大事だと思うことを表現し続けること」と受け取りました。私も雇われずに自分で仕事をしたいママの一人ですが、家庭や育児とのバランスは難しく、何事も思い通りにいかずに苛立つことが多々あります。今回の取材で大和さんのお話から得た沢山のヒントを胸に、私も焦らず頑張っていきたいと思えます！  
(さがみはら男女共同参画推進員 W.K.)

# ソレイユさがみ通信

<http://www.soleilsagami.jp>

ゆめひろば プチマルシェ (手づくり品販売)

ソレイユさがみでは、女性の経済的自立、起業、各種職業能力開発等、女性の就労支援の一環として、手づくり品の展示・販売を行っています。

**毎月第2火曜日 10:00 ~ 15:00**

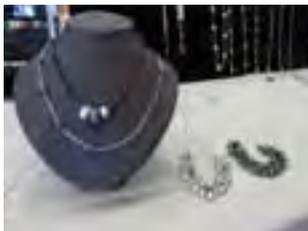
ソレイユさがみにて開催  
(場合により変更することがあります)



プチマルシェ出店者フォローアップ講座も開催しています。  
コンサルタントの今野紀代美さんからマルシェ出店の  
アドバイスをいただきました。

**Q1** マルシェ出店は初めてです。  
人見知りで、お客様に声をかけづらいのですが…

**A1** お客様から話しかけてもらうためにどんなことが出来ますか？  
例えば、笑顔で挨拶する。ディスプレイを工夫する。  
お客様から「これはどういうこと?」「これはどうやって使うの?」など  
聞いてもらえるような工夫をしてみてくださいいかがでしょうか?



**Q2** 集客するためのPRのしかたについてアドバイスを…

**A2** ①マルシェに来られたお客様が情報をどうやって得ているのか調べる。  
②ブログやインスタグラムなどのSNSを利用しているのか、お手紙、電話、  
チラシなのか分かったらそれを使ってPRする。  
PRすればするほど集客効果があります。  
お友達からの輪を拡げても効果的です。

**Q3** 売り上げを伸ばすために工夫することは?

**A3** お客様の困っていることを解決することで感謝され、売り上げが伸びます。  
まずは、お客様がどんなことに困っているのかを知ることが大切です。  
あなたのお客様はどんな方ですか?何歳で、家族構成は?  
仕事をしているのか?子育て中なのか?孫の子守をしているのか?など…。  
どんな時にあなたを思い出してもらいたいですか?



物品の展示・販売のご希望や詳細をお知りになりたい方は、  
ソレイユさがみにおたずねください。

ソレイユさがみ ☎042-775-1775 (問合せ時間9:00 ~ 17:00)

〒252-0143 相模原市緑区橋本6-2-1 シティ・プラザはしもと内

**E-mail [jinkendanjo@city.sagamihara.kanagawa.jp](mailto:jinkendanjo@city.sagamihara.kanagawa.jp)** 本号へのご意見・ご感想をお待ちしております。

発行 相模原市役所(人権・男女共同参画課) 〒252-5277 相模原市中央区中央2-11-15 TEL.042-769-8205(直通)

取材・協力 さがみはら男女共同参画推進員(広報担当 浅井紀子、井上幹夫、小黒芳男、川本若菜、篠原直彦、中村由起子 50音順/敬称略)